

平成27年度学校評価（年間評価）

学校名	大分県立聾学校
-----	---------

前年度評価結果の概要	重点目標（1）については、指標としていた幼児児童生徒の能力を向上させることができたと答えた教員の割合は95%であった。ただし日本語能力の向上については十分指導できていないことからさらなる言語活動の充実が望まれる。また、同じく重点目標（1）に掲げた指標、個別の教育支援計画で保護者の思いが受け止められたと答えた保護者は89%。 重点目標（2）については、乳幼児相談来訪者アンケートで子育ての役に立ったと答えた相談者100%。 重点目標（3）については、卒業生の進学・就職率100%。とおおむね指標を達成できた。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の実態に即し、各学部間の連携による一貫した教育を行うことにより、障がいによる困難を主体的に改善・克服し、社会参加や自立するために必要な知識・技能・態度・習慣を養う。	(1) 幼児児童生徒が主体的な活動を行うために必要な基礎的・基本的な知識・技能・態度及び習慣を身に付けさせる。 (2) 一貫教育確立のため各学部間や寄宿舎との連携システムを構築する。 (3) すべての教員が教育相談活動に必要な知識・技能を身に付ける。	言語活動を充実させ、基本的な日本語（活用）力を高める。

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
					評価	分析・考察		
言語活動を充実させ、基本的な日本語（活用）力を高める。	すべての幼児の認識語彙数が次のようになる 3歳児：500語以上 4歳児：1300語以上 5歳児：1800語以上	行事で扱ったことばを活動後も日常的に使って、やりとりをさせる。 連絡シートを活用する。 学期毎に習得したことばの確認を行う。	教員が年齢毎に語彙表を作成する。 教員が行事ごとに扱うことばを明示する。 行事で扱うことばが連絡シートにより、保護者に周知される。	PL：幼稚部主事	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの懸案であった連絡シートの名称を話し合い「お話しシート」に決定、変更した。</li> <li>・語彙表を基に、各学期の行事で扱うことばを「お話しシート」で周知することができた。</li> <li>・各学期末の語彙表確認を夏、冬休みと春休み前に依頼して提出してもらい、集計できた。</li> <li>・ほとんどの子ども達が、目標認識語彙数を達成できた。</li> <li>・周知されたことばは、「きょうのこと」や「絵日記」の中に反映された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の前に「お話しシート」を見直すなかで、入っていない語彙表のことばには、下線をつけて分かるようにする。また、語彙表のデータにも担当者が追加し更新しておく。</li> <li>・保護者に、語彙表が活用し易いように「お話しシート」と関連していることと、日常に般化させていくことを毎回話していく。</li> </ul>	
	すべての児童が目標読書量を達成し、読解プリントの結果が年間で10%向上する。	読書量について学期毎の目標を児童毎に定め、取り組ませる。 2週間に一度の割合で読書の時間を設け、読書に取り組ませる。	児童が、自己の状況に応じ、低学年で100冊以上、高学年で5600ページ以上の目標設定ができる。 教員が年間で15回以上読書の時間を設ける。	PL：小学部主事	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標読書量の設定（読書カード）」「読書時間の確保」「元気集会でのおすすめの本の紹介」などの取組で、子どもたちの読書に対する意欲が高まり、読書量が増えた。ほとんどの児童が目標冊数（ページ数）を達成することができた。</li> <li>・全学級とも「読書の時間」を15回以上設定することができた。休み時間に自ら図書館に行く児童も増えた。</li> <li>・読解カプリントの結果は、ほとんどの児童が年間で10%以上向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漫画から、日本語の使い方や得る知識も大きいので漫画も可とした。今後、図書館に行くことが習慣付いた子どもたちに、漫画以外の読み物の良さを伝え、文章を読むことへとつなげたい。</li> <li>・読解力向上の結果を調査するための「読書力診断検査」の費用が予算化できないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書習慣に関わって、ICT機器（タブレット等）の利用はなされているのか。 ※読書利用についてはアプリ、コンテンツの問題もある（少ない）。スマホの有効活用等も視野に入れて研究したい</li> <li>・授業参観をして、先生の手話力の差が見受けられる。子どもたちは先生の手話を理解していると思うが、先生は子どもの手話を理解できているのか。</li> <li>・手話ボランティアの利用等を考えてはどうか（日本手話を対応手話に通訳できる人などを・・・）。</li> <li>・本校のろう職員や日本手話に堪能な人を使ってはどうか。</li> </ul>
	すべての生徒が適切な理由を付けて説明したり、資料を活用して説明することができるようになる。 「話し合いまとめプリント」を正しく書けるようになる。	毎月1回以上話し合い活動を行う。 話し合いのルールを毎回確認する。 話し合いの過程や結果を文に書き表し、互いに確認する。	教員が10回以上話し合い活動を実施する。 話し合いのルールを全生徒が言えるようになる。 生徒が話し合い活動の授業ごとの「話し合いまとめプリント」を書けるようになる。	PL：中学部主事	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が話し合い活動を1学期に4回、2学期に4回、3学期に3回、1年間に合計11回行った。目標を達成することができた。</li> <li>・話し合い活動を行う時は毎回最初に話し合いのルールを確認させた。一言一句を正確に言うことはできないが、意味を理解し、趣旨にあった内容で全員がほぼ言えるようになった。</li> <li>・話し合いのテーマに合わせて目的や自分の考え、話し合いの結果をプリントに記録させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動を通じて相手に自分の意見を伝えることが苦手な生徒もスムーズに言えるようになった。</li> <li>・自分の意見の根拠となる資料を準備し、話し合い活動に臨むことで、意見に説得力が生まれ、自信を持って発表することができた。資料についてはまだ安易に手に入る情報に頼る面が見られたので、幅広く情報を収集し、必要な情報を精選していく指導をしていく。</li> <li>・自分の意見や相手の意見を記録することで、互いの意見を文字で確認する大切さと必要性を理解することができた。今後は自分の考えを適切な言葉を用いて表現できるよう書記日本語力の向上に繋げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他県のように保護者から口話での指導を言われても、ろう者には手話が必要であると言って欲しい。 ※本校は手話・口話に限っているわけではなくトータルコミュニケーションの立場で指導しており、その考えは今後も引き続き変わらない。</li> </ul>
	すべての生徒が、5W1Hを押さえ、必要事項が適確に伝わるメモを取ることができるようになる。	メモの取り方を指導し、ホームルーム活動、現場実習、校外学習及び修学旅行においてメモを取らせる。	すべての生徒がメモ作成の要領を身につける。 すべての生徒が、すべての活動後にメモの写しを提出できる。	PL：高等部主事	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモ帳の活用とメモ取り組みプリントは、1年間継続して取り組み、習慣化することができた。</li> <li>・保護者の学校評価アンケートでは学部目標の達成度90%という評価を受けており、保護者理解も得られた。</li> <li>・生徒と職員にメモのアンケートを実施し、効果と課題を検討した。ほぼ全員が取り組みの大切さと継続の必要性を認識し、約80%の生徒・職員は年間の取り組みの効果を実感している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の授業の中でも、「メモの学習」であることを生徒に明確に伝え、取り組む。</li> <li>・取り組みを深めるためには、教員側も個々の生徒に合わせたメモの活用を考え、工夫し、主体的に指導にあたる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の大学進学者はいないのか。</li> <li>・子どもの状態に応じたしどうをしてほしい。 ※生徒それぞれの希望にそった進路指導を行っている。</li> </ul>

総合評価 次年度への展望等	重点目標について、保護者アンケート結果では、中間アンケートでは平均達成率80%であったが年間アンケート結果では85%となり達成指標としていた取組をほぼ遂行できた。ただし日本語（活用）力をさらに高めるため、残された課題解決のための新たな方策を導入することも視野に引き続き言語活動を充実していくことが望まれる。
------------------	---